

# 国道20号八王子南バイパス (仮称)館第一トンネル

## 芥川麻実子の現場探訪



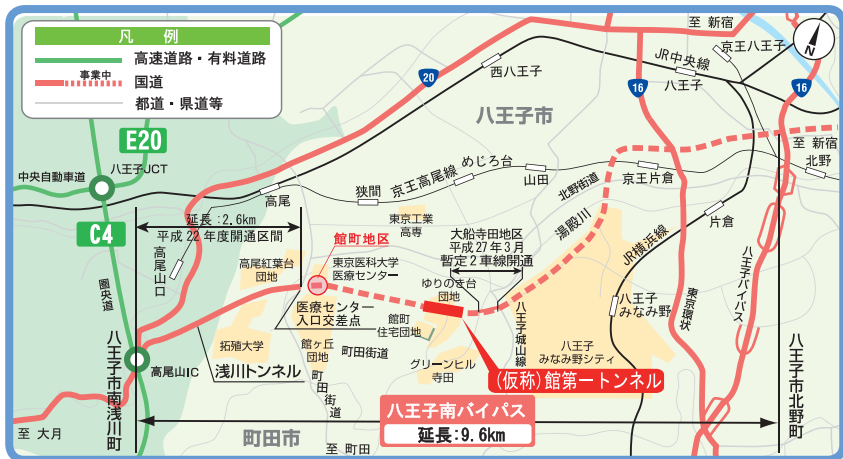
### (仮称)館第一トンネル大規模な工事進む

この現場を訪れるのは2度目。初めてここに来たのはおよそ1年前、埋蔵文化財の調査が行われている最中でした。その時すでに、(仮称)館第一トンネルのシールドマシンを発進する地点の整備も行われていました。トンネルが掘られる予定の小山の上には、多くの住宅が立ち並んでいます。その真下、地表から浅いところにトンネルを掘るとは驚きです。地元住民の理解と協力に得るべく、夜間は工事を行わず、ダンプカーの往来数にも配慮し、騒音も極力抑える工夫により工事は進められたといいます。

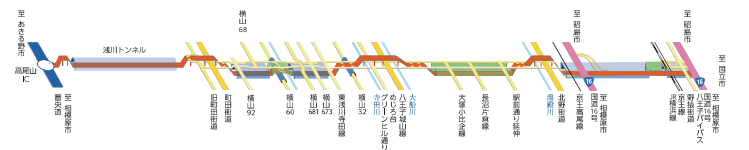
今回は平成31年3月11日に、11か月をかけて貫通したトンネルの見学です。想像していた通り、この455メートルのトンネル工事にあって、最も厳しい条件は地表から浅い場所に造られること。掘削工事の際、トータルステーションと呼ばれる測量機器で、レーザー光を出して地表変化を観察し、微妙な変化に応じてシールドの進みを変えて地表の変化を最低限にとどめていくという、積み重ねられた技術者の経験によってトンネル工事は無事完了したのです。

「このようにメガネのような丸い二つの坑口が見えるのは、ほんの短い間です。手前には四角いコンクリート製のボックスが設置されるからです。また今立っている小山の上から見られるのもほんの短い間。この山を全て切り崩してバイパス道路ができるからです。そして坑口の向こう側にある小さな山は、埋蔵文化財の調査中が終了した後、切り崩して道路が通ります。現在あるこのあたりの風景は、今後一変します」

説明して下さったのは、相武国道事務所工務課・建設監督官の野口啓樹さん。相武国道事務所が受け持つ区間はおよそ9.6キロメートルですが、トンネル、掘削、高架が多用され、既存道路との交差は大部分が立体交差となり、大規模な工事がこれからも連続して行われます。国道20号バイパスの工事現場から、これからも目を離せません。



国道20号八王子南バイパス計画位置図



国道20号八王子南バイパス 館第一トンネル計画平面図



甲府方面からトンネルを望む



役目を終えたシールドマシン



(仮称)館第一トンネル 上り線側貫通状況